

中国・四国ブロック

1. プログラム詳細

【日程 1日目】

13:00～13:45	(45)	受付
13:45～14:00	(15)	開会 ・主催者あいさつ：内閣府政策統括官（共生社会政策担当） 付交通安全啓発担当 参事官補佐 横山 和子 ・来賓あいさつ：鳥取県 生活環境部 くらしの安心局長 藪田 千登世
14:00～15:10	(70)	講演① 自転車のルールと事故防止 ～ 指導のポイントをどこにおくか～ (一財)日本交通安全教育普及協会 主幹 石井 征之
15:10～15:25	(15)	休憩
15:25～16:35	(70)	講演② 子どもの交通安全教育 ～ 通学路の安全を考える～ NPO 法人日本こどもの安全教育総合研究所 理事長 宮田 美恵子
16:35～16:50	(15)	グループ別交流（自己紹介及び役割分担検討）
16:50～17:00	(10)	閉会及び連絡事項

日程 2日目】

8:30～9:00	(30)	受付
9:00～10:20	(80)	グループ討議（テーマ別討議 8グループ） 1班：高齢者（運転者） 2班：高齢者（非運転者） 3班：子供① 4班：子供② 5班：自転車① 6班：自転車② 7班：教育の手法（組織の活性化について） 8班：教育の手法（指導技術の向上について）
10:20～10:30	(10)	休憩
10:30～11:50	(80)	グループ討議結果発表 全体討議及び意見交換
11:50～12:00	(10)	コーディネーターによる講評
12:00		閉会

2. 講義等の記録

【1日目】

■講演①

自転車のルールと事故防止

～指導のポイントをどこにおくか～

(一財) 日本交通安全教育普及協会 主幹 石井 征之

212 ページの近畿ブロックでの講演録参照。

■講演②

子どもの交通安全教育 ～通学路の安全を考える～

NPO法人 日本こどもの安全教育総合研究所

理事長 宮田 美恵子

皆様こんにちは。宮田でございます。

皆様が日々熱心にされていらっしゃる活動は、子供たちや多くの人たちに大変役立っており、本当に頭の下がる思いです。今日はそのような皆さんと一緒に勉強をさせていただく時間をいただきまして、とても光栄に思っております。

まず、こちら鳥取県では今年の7月にも講演の機会があったり、数年前の8月に高校の先生方の研修会を、まさにこのホテルでお話をさせていただいたことなどを思い出し、とても懐かしさを感じながらここへ伺いました。

初めて訪れた折り、鳥取砂丘へ行きました。通常、地元の方は8月に鳥取砂丘に行かないんですね。確かに足が火傷するかと思うほど熱かったですが、それ以上にとても美しかったです。さすがに足が熱過ぎたので先端の方までは行けませんでした。とても良い思い出でした。

ちょっと余談でしたが、これから「子供の交通安全教育ー通学路の安全を考えるー。」というタイトルにてお話を進めていきたいと思っております。「通学路」を交通安全のお話のメインにお話して行きますが、「子供たちの通学路。」という空間は、子供にとっての危機ということで考えると、交通事故もあれば、それから、地震ですとか、そういった災害が起こるかもしれない、また、このところ子供たちの事件を良くニュースで耳にするんですけども、そういった犯罪被害が起こる訳ですね。

子供たちの通学路という空間には様々な危険というものもある訳です。私の方では、交通を自分の中心にしていきながら、そこに少し犯罪のエッセンスも入れて話をし行きたい

と思っています。

一番初めのテーマですが「社会の変化と子供の安全。」についてです。この社会の変化と子供の安全、これはもう皆様方も感じている通り、子供たちを取り巻く環境は大きく変わりました。例えば交通事故について挙げれば、1948年の統計から始まり、1970年には件数が1万6,785人とピークを迎え、そこから2014年には4,113人と大いに減少しました。まさに14年連続減少しているこの結果は、皆様方の本当に日々の努力の賜物が大きく寄与していることは言うまでもありません。このように事故が増加から大きく減少している訳ですが、その間子供たちを取り巻く環境も大きく変わってきました。

自動車が普及する前は、道路というのはある意味で子供たちの遊び空間でもあった訳です。道路で石蹴りをしたりとか、おじいちゃんたちは将棋を差したり、母親は井戸端会議をしたりする、1つのコミュニケーションの場としての時代があった訳です。

まだそういう時代は車も少なかったので、子供の交通事故もそんなに心配がありませんでしたし、犯罪被害についても、地域の方々が目を向けて下さるので、ある意味見守られた空間だったということが言えると思いますね。

しかし、社会が大きく変わりマイカーブームで皆が車を持つようになると、どんどん子供たちはこの空間から閉め出され、私たちの住まいもどんどん郊外へ移って行くことになり、むしろ車が主役のように道路や町の中を通るような街にだんだん変わってきた訳です。そうすると、子供たちの居場所もどんどん変わって、なくなって来ました。空き地も少なくなったので今、公園ではキャッチボールも出来ないような状況があります。私は東京ですが公園は小さく、キャッチボールは禁止です。一体何処でやれる所があるのかなと思うぐらいです。本当に子供たちの居場所や遊び場がなくなった、もしくは遊びが変わらざるを得なくなりました。

ですから、あまりコンピューターゲームをやっていることを責められないような気もしますけど、現実空間から今度は仮想の空間に子供たちがどんどんスライドして行かざるを得なくなった、そういう環境を作って来たのは私たち大人と言っても良いと思います。そういう大きな変化を過ごして来たということになります。

そういう中で、子供たちの通学時の交通事故における死傷者の推移というのを見てみると、先程の減少傾向の中で少し気になるのが、平成23年までの数字です。これは通学時の通学路での子供たちの表です。キュッと上がっている赤いグラフが6歳から12歳の小学生の子供たちです。子供たちが通学路で事故に遭って命を落としたという事故が増えていることが分かります。このように大きく減少している中での少し気になる現象、状

況もあるということです。

これは交通事故の1つの例ですけれど、一方の犯罪についても見てみましょう。先程石井先生が交通事故が大いに減って来ており、目標を持って更に減らして行きましょうというお話がすごく耳に残っています。2013年の表になりますが、この目標を達成することで、世界で一番交通事故死者数の少ない国になるという明らかな目標が立つ、これは良いと思いました。日本は安全な国に是非なってもらいたいと思います。

それで、これを踏まえた上で、犯罪という意味ではどうなのかということですが、皆さんブラジルが犯罪が多い国であるをご存知でしたか。これは少し古いんですが、この形を見ていただきたいのですが、これは犯罪が起こって、それを警察が知り得た数を記しているものです。これを見ますと、一番トップに君臨しているのはアメリカですね。犯罪大国アメリカが拳がっていますね。それから、2位はドイツ、水色はイギリスというように、いわゆる犯罪大国と言われるような国々はこういう形を示しています。

では、日本は何処かと言うとここです。日本が一番下です。だから日本は犯罪という意味ではかなり少ない、安全な国だというように世界の中で位置付けられているので、1位に比べるともう圧倒的に違いますね。

それからもう1つ、これは少し新しい表ですけれども、こちらは人口比です。アイルランドがトップを走っていますけど、日本はどこかというところ2番目です。2番目に犯罪の少ない国だということです。だから、これは通学路に限った子供の話だけではありませんが、これを見た時に、交通でもやはり日本は世界に比べると安全な国であり、犯罪も少ない国ではあるということです。

しかし、それで安心して良いかと言うと、そうではないですね。例えばこの犯罪というこの様子を見ても、アメリカは1位ではありますが、相当頑張っていますね。大分減って来ている様子が見て取れます。しかし、アメリカから日本の件数まで落とすのは相当の努力と年月も掛かる訳です。やはり交通事故もそうですし、犯罪もそうですが、起こさない努力を引き続き行っていく必要があるということですね。

いざアメリカが日本に追い付こうと思った時は相当な努力が必要です。今、世界の中で安全と言われるこの日本の状況を維持し、更にゼロを目指して行くというのはやっぱり日々の努力なしにはならないということになると思います。

そして、そのような安全を維持していく方法として教育があります。安全教育と言われるものですが、日本ではやはり交通安全が一番進んでいると思います。例えば交通に限らず、犯罪や災害というような様々なことがこれまでも起こって来ました。

子供たちの交通事故というのも起こって来たように、また犯罪というのも、例えば 2001 年、大阪教育大池田小学校の事件、子供たちが授業中に犯罪に巻き込まれて命を落とすなんていうことは、これまでこの安全な国に住んでいると思っている私たちにとって本当に青天の霹靂であり、まさか我が国の社会をとて震撼させたそんな事件でした。

その後も 2004 年、5 年、6 年と、奈良県、広島県、栃木県、今度は子供たちが下校中に相次いで犯罪に遭う、ということもありました。昨年も倉敷や神戸など、色々な所でやはり子供たちが被害に遭うということがあり、交通や犯罪を含め、例えばパトロール隊が全国で結成されたり、文科省によって地域ぐるみの学校安全体制整備事業というのが始まりました。いわゆるスクールガードの皆さんが子供たちの周りを見守って下さるというような取り組みが始まりました。

2009 年に保健の後に「安全」という言葉が入って、学校保健安全法が出来ました。こうして子供たちを取り巻く通学路の安全、災害や犯罪、交通事故などから子供たちを地域ぐるみで守って行きましょうという方向となり、今では子供たちを地域ぐるみで見守って行くことになってまいりました。

では、学校保健安全法は学校安全の中ではどんなことを取り扱っているかということ、大きくは 3 本柱です。1 つは生活安全。生活の中で起こる事件とか事故、先程少し触れた犯罪もここに入ります。それから、交通安全、災害安全という 3 本の柱です。

災害だけ見ても、これだけ様々、地震や津波や火山活動や風水害や原発、もっとあるかもしれません。こういう様々なことについて、子供たちが自分や自分以外の人たちを守るために一体何が出来るんだろう、人に配慮をしたり環境を整備することに自分も寄与する、そういう力を付けて行こうという目標を持っているのが学校安全教育というものなんです。

しかし、子供たちの安全を守る場合は学校だけでする訳ではないですね。まさに学校保健安全法の中には、強調されているのが地域ぐるみでということです。学校の先生だけがするわけじゃないということです。まさに地域、家庭、学校が 1 つになって対応して取り組んでいこうというものです。

また、このグラフを見て行くと、ゼロ歳から小学校、中学校に上がり、皆さんのような地域で活動出来るような大人になる。このサイクルを見て行くと、やはりゼロから 5 歳、小学校に上がる前のこの段階というのは家庭の安全教育と考えるのが自然ですね。

この家庭の中での安全教育は、しっかり生活習慣を身に付けたり、決まりを守ることが出来るとかというようなことを含め、この絵のように赤ちゃんがお母さんに抱きしめられ

ています。私は、お母さんに抱きしめられると、きっと赤ちゃんはお母さんの肌の温もりを感じて、お母さんの胸って温かいねと思ったり、やわらかいねと思って安心してきっとスヤスヤ眠ると思います。赤ちゃんでもお母さんの温もりを通して、自分の命の大切さを感じ取ることがきっと出来るはずです。そして、自分を大切にしてくれる人、お母さんやお父さんなど、自分を守る人がいるんだと感じる、そのような大事な段階だと思います。自分の大事な命を守っている、大事な人がいる、だからこそそれを守るための安全教育が必要だという、このまさに土台になる部分です。

そして、小学校に上がれば、今度は先程の、自分で自分を守るという力を高める具体的な安全教育が学校で始まり、自分たちを見守ってくれる地域の人たちがいて下さる、まさに皆さんのことだと思いますが、その方々に見守られている、そういう安心感がある中で私たちは暮らしているんだなと感じてもらいたい。これが目標になると思います。

そして、中学校に上がったら、今度は自分の安全だけでなく、自分以外に、お母さん、お父さんを超え、友達や先生、地域の方々と色々な自分以外の人たちのために、その人の安全を妨げない行動が出来る、そんな人になってもらいたいと思います。

例えば、時々ボランティアの活動に参加したり、地域の大人と一緒に何か行事に関わってみるなどの経験もしてもらいたい段階です。そして、将来は皆さんのように地域で安全を守って行くという取り組みについて、積極的に自分で出来ることをする、そういう力を身に付けて行く。これはやはり家庭、地域、学校それぞれの安全教育になると思います。

特に地域の安全教育について考えて見ると、自分だけが安全ということではなく、自分や自分以外の方が安全・安心な日常を送れる、そのために自分に何が出来るか。皆さんのような活動が出来る人ばかりではないですね。

そのような皆さんの活動、例えば何か自分が買い物に行く時でも子供たちに目を向けて行こう、それで良いと思います。自分に出来ることは何かを考え、皆と一緒に安全・安心を守って維持していく、そういう活動や行動が出来る人、そういう力を持った人のことを市民と呼ぶと思います。

ですから、安全教育が目指している所は、市民を育成する、市民性を育むということになると思います。このことは犯罪とか災害、交通と分ける必要がなくて、恐らく共通する理念だろうと思いますね。これが安全教育の大きな枠組みと捉えて良いと思います。

地域には見守り活動や交通の指導をして下さる方がいたり、自分の車をパトロールカーにして子供たちを見守って下さる方もいる。時には子供たち自身も参加して大人と一緒に歩くことで街の様子を見たり、何が自分たちに出来るかといったことも考えるきっかけに

なってもらふことだと思います。

こういう経験を通して、子供たちが大人になった暁には、今度は誰にも強制されることもなく、私たちが皆さんのような方々に見守ってもらったお陰で大人になったという感謝の気持ちがきっと生まれると思います。今度自分が親になった時に、誰に言われなくてもやるのは当たり前のこととして、見守りをつなげて行くということが今のこの活動の大切な所だと思います。

だから、教育というのはすぐ目には見えません。色んな地域活動をされる方々は、これが本当に役立っているのかなと、時々心配される方がいます。この活動、本当に意味があるの？と言われてたり聞かれたりするかもしれませんが、もちろんあるわけですね。それはすぐには答えが見えないけれども、子供たちが親になった時に、自然にまたそれがサイクルとして回って行った時、結果が見えたこととなりますね。

次に「見守り活動と交通安全教育」についてですが、通学路での交通事故というと、やはり 2012 年の亀岡での交通事故でした。これは、この写真からも分かるように、この現場は、見るからに急カーブで見通しが悪いというような場所ではないですね。子供たちが丁度通学の登校の時に、前から暴走車がやって来て激突した、まさにそういう場所ですが、決してここならば事故が起こりやすいという場所には誰が見ても見えません。

しかしながら、あの甚大な事故が起こってしまったということです。そうなってくると、やはり環境整備が必要となりますね。このような事故を起こさないためにどうしたら良いかを考えると、やはり環境の整備はする必要がある。子供たちはここをちゃんと約束を守って歩いており、ルールを守ってきちんと歩いていた子供たちがそういう被害に遭った。

この翌年にもここから近い所で同じような事故が起こっています。その時、その子供が通う学校の校長先生がテレビで「ちゃんとルールや約束を守って歩いている子供たちがこんな目に遭うのでは、もうどうして良いか分からない。」と言って怒りを表していた様子がすごく目に焼き付いていて、私も本当に同感してすごく悔しいという憤りを感じました。ルールを守っていても、そういう目にも遭うということになれば、やっぱり歩行者側が注意の意識を高め、そういう事故に遭わないようにして行くことも大事だし、そういう違反者を作り出さない教育も必要になってくると思います。

このような事故を受けて、全国で交通安全のため通学路点検が始まりました。やはり大事なのは歩行者と車をどう分離し、どう共存させて行くかということです。同じ通学路という空間の中で、歩行者と車を分離するためにガードレールやガードパイプ、ポストコーンなどが必要な所にきちんとあるか、壊れていないかを点検しました。それから、歩行者

と車が共存するために、改めてカーブミラーが必要な所はないか、劣化していないかというようなことを皆で全国点検するということをやったわけですね。そうすると、随分な点検箇所が文科省の方にも報告されたということです。

通学路の交通安全の点検ということに少し補足すると、今何ともなさそうに見える場所や道路であっても、曜日や時間、天気、季節、行事があるかないかによっても、やはり街の様子はどんどん変わります。今この時だけのことでなく、時間や曜日を変えたり、雨が降るとどうだとか雪が降った時など、様々な目線で予想を立てて行くということが大事だと思います。

これは一例に過ぎませんが、週に何回かゴミの日があります。この細い道にゴミを出していくと、本来電信柱の内側を歩くべきですが、膨らんで車と接触しそうになります。ゴミを置かれてしまうと通れませんから、やはり膨らんで歩く曜日があつたり、また、それを集めに来てくれるまでの間、街中その時間帯になる訳です。また、その時、雨が降っていて、傘を差して膨らんで歩くとどうなるのかなということも考えていただく。そしてゴミを集めるのが本当にここで大丈夫か、雨が降ったら起こり得ることなど、改めて見えない危険を予測し、点検や整備方法も重要かと思います。

そして次の写真ですが、子供たちは目をつぶっても安全に渡れてしまっているんですね。これ実は、たまたまだったかもしれませんが、おはようというような声も聞こえず、下を向いたまま真っすぐ歩いて行けば安全に渡ってしまうという状況を、もちろん大人の方が確保して下さっているので安全が保たれ、確保されています。

しかし、ここで大事なことは、目の前の危険から子供が守られれば良いということではないですね。皆さん方は安全教育者です。地域の安全教育者と言って良いかもしれませんが、子供たちに「おはよう。」と挨拶する習慣や、「おはよう。」という気持ちが良いという生活習慣をここでもやって欲しいです。そして、皆さんが安全確保した中で、むしろここは体験学習が出来る訳ですね。

見守っている中で、ちゃんと右左を見てしっかり渡る、これも体に染み込ませて習慣化することで、今後この子は何処に行っても自分1人で歩ける、というような子供たちに安全教育をしていただく、皆さん方は安全教育の先生であると思います。是非こういう場面も1つの教育場面として使って欲しいと思います。

この写真もよそ見したまま真っすぐ歩いています。とてももったいないですね。こういう場面も是非大事にして行きたいと思います。

それから、今の子供達の交通安全に大事なことは、しっかり止まるとしっかり見る、確

かめる、待つなどいくつかのポイントがあると思います。改めてちょっとワークショップを通して確認したことがあります。やはり、しっかり止まって待つことをやってもらいたいし、しっかり確認することもやってもらいたいですね。

渡る時に、止まるのはもちろんですけど、一步下がって止まってもらいたいし、見るというのも、何となく見ているようで、顔を何となく動かし、右左、はい見たという感じで、本当にバスやバイクが来ていないか、しっかり見てくれているか怪しいと思います。

ある県では、渡る前に一步そこで止まったら、子供とドライバーがアイコンタクトをして安全をお互いに確認し、今から渡りますよと目で合図をして渡ることを徹底している所もあります。そのことを確認するために、ワークショップでこんなことをやったことがありますが、まず、部屋の中で道路の横断の様子を再現して、どんな所で立ったり、どのように見たら良いかということをお子たちと確認したことがあります。

一步下がって待つと良いよと言ったり、しっかり見させるため前を向かせておいて、後ろが見えるか、このくらい見ないと見たことにならないよと、体や顔を向けて確認をさせることをしました。

それから、地域性を踏まえる必要があるという石井先生のお話にもありましたけれど、やはり実際に自分たちが暮らしている街を歩いて見る体験学習も大事だと思っています。まず親子で自分たちの暮らしている街を歩き、交通安全という目を見た時、街の中にどんな危険や安全があるか、その危険や安全の人や物を見に行こう、それぞれ街が違いますので、親子で交通安全という観点の街歩きの体験学習をやりました。

この春の入学シーズンに読売新聞が取り上げた事例です。子供たちにこんな所が危険だとか、この場所ではこうした方が良いなどと話したりして体験させ安全を確保する。一緒に注意しながら安全な行動をして街を歩いていく学習をしました。

その前に自分で見ておく必要があるので、前日に下見に行きます。そうすると、見て分かるように、私たちはいつも子供たちに白線の中を歩きなさいと言っている訳ですね。しかし、このようにお店屋さんの看板が堂々と、毎日朝 10 時になると道に出て来ます。また朝はないですが子供の帰りの時間には、そもそもある場所ではない所に置かれ、子供が通る場所が塞がれていることが普通になっていますね。ここを通れと指導しながら、実はその場所がしっかり確保されていないんだということです。このように何か普通に物が置かれている状況が街中にありました。だから、自分たちはどんな特徴のある街に住んでいるのか、というのを知ることがすごく大事だと思います。

それで、この交差点（写真）を左に曲がって見ます。そうすると、私はこの学習のため

に初めてここを歩いています、ここに来た時、すごく見通しが悪く全く何も見えませんでした。そうこうしているうちに、こちらから車がビュッと走って来て、ああ、これは見通しが悪く危険な場所だと思いました。ちょっと飛び出したらすぐ接触しそうな環境です。

ところで、この写真は歩道がとても広くて安心ですね。自転車はここを通るようにときちんと色分けされています。子供たちに是非気が付いてもらおうと思います。

それから、ここは自転車がとても良く通ります。今、自転車が通る場所は青いラインで区別されますが、意外とこちらを走ることもあり、そうすると人はこちら側に寄ったりしますから、せり出している植え込みなんかも、子供たちの背丈によっては非常に視界を遮っています。

先程も巻き込みの話がありましたが、やっぱり一步後ろに下がって待たないと、こういう危険もあるよというのを実感し、一步下がって待つことが大事だということを実体験を通して教えると、理屈なしに子供たちは理解する感じでした。

今のお話はまだ下見の段階ですけど、このように私自身がまずポイントをチェックして行きます。例えばこの写真ですが、バイクにカバーが掛けてありますね。大人なら特別注意する必要はありませんが、子供たちの身長から考えると、バイクカバーの向こうから来るものを目隠ししてしまうものにもなります。本当に大人と子供の目線や視点では全然違うということを実感します。

次の写真ですが、親は親グループ、子供は子供グループで歩いています。子供のグループに私がついていますが「私がここはどう思う？」とか「ここはこうだよ。」「では安全な行動をしましょう。」などと言いながら歩いて行きます。親は親同志で「ここは危険ですね。」とか言いながらチェックしたり写真を撮ったりする、そういう活動なんですね。そうすると、親は親の視点・大人の視点で「ああ、そうか、ここは危ないな。」と感じ、子供たちが思ったことと後で突き合わせするという目的があり、別々に歩いています。この部分ですがバイクカバーを掛けると、こんな存在さえも、実は背の低い子供たちにとっては全く自動車の存在が見えず隠れてしまうことにもなるのです。これを止めてもらう訳には行きませんが今度はこちら側が「ではどうしたら良いのか。」というのを子供たちに話して教えてあげないといけないと思います。

また、この街には見通しが悪い場所が意外とある、そういう場所に子供たちが住んでいる、暮らしているということを知って子供自身や保護者の方々自身にも知ってもらおうということが、まず意識を高める第一歩かなと思いました。この場所もコースに入れようと思ひ、先程よりさらに狭い道に電信柱とか植え込みがせり出したりしている訳ですから、やはりこ

ここを通る時は「もしかしたら。」を意識して歩くことが大切でしょう。また、工事中の車が停車していると、さらにここは狭くなっているのです。ではこういう所はどうやって渡ったら良いか？など、これから学校に入学する子供たちにしっかり教えてあげないといけません。と思います。

この写真のように、何げない場所でも視界や見通しが悪い、ここから急に自転車が来るということもあり、そういう場所がいくらでもある街に住んでいるんだよ、だから、皆がそういう目に遭わないためには自分自身が意識を高めて早く気が付き、相手に早く気付いてもらうということをお子へたちにも知ってもらいたいと思います。

また、見通しが悪いところ、お花がとても綺麗ですが白線の中をかなり塞いでいる様子、少しカーブになっている所に電信柱が立っている上、更にゴミを集める場所にもなっています。このような場所はちょっと危ないですね。

この歩道の中に堂々と電柱が立っていますね。ここからはとても見通しが悪いです。子供たちにはこのような場所がいくらでもあることを知ってもらい、安全に通る方法を1回はシミュレーションをする必要があると思いました。

次の写真は、後ろ姿になっている少年たちに出会いました。すごく元気が良く積極的な子供たちで、私に話し掛けてきたんです。交通安全の話をしたら、僕はもう何十回も轢かれそうになった場所があると言われ、そこに連れて行ってもらいました。何と行った場所は先程話をしたバイクカバーの場所でした。子供がここで渡ろうとすると、いつもここで轢かれそうになるというんです。子供が丁度この電信柱と植え込みで、向こうから来る車が隠れてしまうのです。信号もありません。突然、車がビュッと来るので、危ないから走って逃げたみたいな経験をいつもしているようです。ここはとても怖くて嫌な場所だけど、ここは通らなければならない場所なんだと話をしてくれました。恐らく大人は余り危険な場所と捉えないですが、子供たちにとってはとても危険な場所になっていることが分かりました。

そして、これを踏まえて翌日に子供たちと実際に街を歩いた時に、初めは全く意識をしない様子でしたが、一歩後ろに下がって体を向けるぐらいしっかり見るんだよと説明しながら歩くと、だんだん意識をし始めました。ここは止まれのマークだね、じゃ少し体を出して、右左見てから渡ろうと話すなど、同じことを何回も繰り返していきます。子供たちも次第に理解してきて、どんな所に気を付けたら良いのか、ここは危ないんだなどお互い話し合っている様子で、どんどん子供たちが理解しているという手応えを感じました。

やはりこういう繰り返しが大事だと思います。カメラも持っていた子供が、さっきの見

通しの悪い場所を撮るなど、子供たち自身でどんどん色々なことを考えて出来るようになってきました。先程の少年が教えてくれた、とても危ない場所にも連れて行って確認してもらったりしました。部屋に帰ってから、母親たちが見てきて感じた危険を、マップに子供たち自身も描いて突き合わせをし、大人と子供の気が付く場所がこんなに違うんだと確認し、保護者の皆さん方も感想を持たれていました。このように具体的に学んで知識を体に染み込ませ、習慣化して行くということがすごく大事だと思います。

次の話ですが「交通事故事例。」ですね。実は自転車事故ですけど、こういう場所なんです。ここに横断歩道があって、この人は実は私なんです。一昨年ですが、朝出勤時、何時ものようにとても狭い道を歩いていた時に、信号が植え込みで遮られ、信号が見えないのです。前から人が歩いて来たので青だと思って一步踏み出したら、こっちから大人の自転車がやって来て、私に当たったんです。私は両手に持っていた厚い本が入った荷物のお陰で助かりました。当たって、荷物が吹っ飛び、転んでという大変痛い思いをしました。もし荷物がなかったらどうなっていたのか、そういう自転車との衝突事故でした。自転車の立場からはこの植え込みで人が見えない、信号は赤になっていた。習慣で渡ってしまった。自転車の安全利用五則が当時も徹底されていたら良かったと思いましたが、こういうことは何時あってもおかしくないですね。私もこういう痛い経験をしたので、止まって見ることが習慣になりましたが、それを子供たちが痛い思いをして知るというのはいけません。やはり色々な場面で子供たちに繰り返し伝えて行かなければとつくづくと思いました。

それで、この自転車についても安全教育という中で、自分の空間として感じられる教育も必要ではないかと思います。というのも、パーソナルスペースという自分の空間という概念があります。例えばこの真ん中に人がいます。これは子供でも大人でも誰でも良いのですが、ここの1つ目の枠というか空間に人がいて、これを取り巻くこの白い枠の中に入って良い人というのは、ある意味で限られていますね。人は人と向き合う、対峙する時、その状況と人との関係性によって立ち位置が自然に決まりますね。それが1つのパーソナルスペースです。まず自分という空間があり、自分以外のふさわしくない人が立ち入ると人間は本能的に警戒しますね。例えば電車に乗って座る時、皆さんどこに座りますか？座席の端に座りますね。私もそうです。まず端に座り、次は向こうの端に座り、端からだんだん埋まって行くと思います。端に座った私の隣に座るということはまずないでしょう。というように、やはり人間は自分だけがいると心地良い空間を誰でも持っている。例えば満員電車だとその空間を保持しているということが出来ませんから、自分と余り親しくも

ない人が近くにいることはおかしくないですね。そうすると電車の中の皆さんは少しイライラとして、何か踏んだとか、触れたという話になって雰囲気が悪くなることがあります。やはり人間は自分の空間に他人が立ち入ると、本能的にちょっと緊張すると思います。ここは自分の縄張りですからね。

この一番身近な、小さな縄張りの中に入って良いのは「密接距離。」と言います。一番親しい、例えば子供にしたらお父さん、お母さんとか、恋人同士とか夫婦とかという人たちが入るのにふさわしい空間があり、その次には、もう1つ外の輪ですね。人との間に1.2メートルぐらい、お互いが手を伸ばしたぐらいの空間が取れる距離が良いですね。道で人と話をする、人とすれ違う、自転車に乗って人とすれ違うなども同じだと思います。そういうお互いに安心できる空間を取るのには1つのマナーなんですね。

「公共距離。」と書いていますけど、これはまさに今、私と皆さんとの距離感のことで、すね。例えば講演会とか講義とかする時は、3.5メートルから3.7メートルもしくはそれ以上空いているとお互いに心地良い訳です。皆さんがもし私の目の前にいらっしゃると、やっぱり少しやりにくいですよ。その場に相応しい空間をお互いに取るということがとても大事なことで、これは安全教育の大事な点だと思います。自分自身はその空間を大事にすること、その空間は自分以外の人にもある、その空間を脅かすのではなく配慮することが安全教育で大事であり、とても心地良いコミュニケーションが出来るので1つのマナーの基本になる訳です。

自転車に乗った時も同じですね。目に見えないけれども、自分を取り巻き、包み込んでくれるようなものの中に自分がいるというような感覚、そういうものを感じられると良いなと思います。この目に見えない空間は、自然に接触して事故になるとか、怪我をすることも少なくなると思います。例えば、中学生が自転車に乗っています。狭い道だから仕方ないのかもしれないですが、子供たちの空間を見ると重なっています。そうすると子供たちは自転車が来てヒヤッとして怖い。これは先程のルールに合いません。人に不安感を与えず、思いやりや配慮をするということが安全教育の重要な所です。実はこの安全能力は、空間をコントロールしたり自分で調整したりする能力も含まれると思います。

ここまで主に交通の話をして来ましたが、実はこの空間の考え方については犯罪とすごく関わるので、あえて今日は登場させましたが、ここから少しテーマを変えて、「通学路で起こる犯罪。」ということに触れたいと思います。子供たちが被害に遭う犯罪の種類は一番多いのは圧倒的に自転車です。自転車に鍵をかけずに置いたら盗まれたというのが圧倒的に多いですが、自身の身体に害を及ぼす犯罪になると、やっぱり連れ去り、略取・誘

拐、わいせつなどが入ってきます。略取・誘拐全体の84%は少年ですから、中学生とか小学生とかの子供たちが被害に遭っていて、未就学でも36件、中学生でも22件です。今はこういう状況になっていますが、皆さん覚えていますか、2013年に東京都の練馬区で、学校の校門前で子供が刃物を持った男に襲われたという事件がありましたね。子供は授業が終わって正門から出て集団で帰ります。学校の正門の前で小学1年生の5、6人が他の友達を待っていました。そこへ刃物を持った男が子供たちの所へやって来て襲いかかったという事件でした。

この時、子供たちを助けて下さったのがまさに交通指導員の方だったのです。その方が丁度ここにいて、子供たちの交通指導に当たっていたところ、向こう側でギャーッという声が聞こえ、そこへ飛んで行って下さったということでした。70代の男性の方で、黄色い50センチぐらいの棒、渡らせるためのものだと思いますけど、それを持ってその刃物男と向かい合ってくれたという事件でした。そのお陰で、相手はひるんで逃げて行ってくれたということでした。

その交通指導員の男性は、こう言っていました。「子供の叫び声が聞こえて、とてもびっくりした。自分は交通指導が担当だが、やはり同じ通学路という空間の中では、子供の安全と言えど同じことなので、自分も怖かったが子供たちを守らなければならない。」と思い、その棒を持って男に立ち向かって下さったという事件です。

私は皆さんに立ち向かってください、ということを行っている訳では決してありません。本当は指導する方々の安全も大いに守られなければいけませんし、その事を視野に入れたお願いでなければと思います。この方も含め、皆さん方も同じですがこのような活動をして下さる方は子供のために本当に熱心にやって下さる方々です。その熱意で守られたという1つの例だと思えます。丁度この正門前は盲点になるんですね。学校の敷地内は、学校安全で学校が中心になり守っていますが、校門から外は地域ですし、通学路というエリアですから、やはり地域の方々がこの通学路を見守って行くことになります。

先程地域ぐるみと言いました。もちろん家庭、地域、学校、皆でとなっている訳ですから警察も含めてみんなが担当者です。学校から一步出た所、この校門前はどうしても盲点になり、そこは安全な場所ではないかという人々の意識があつたりします。

地域の方々が見守り活動をして下さったりしますが、丁度その狭間になっている校門前が犯罪という目線で見ると盲点になっている。そこを指摘させていただきました。

このように考えて行くと、やはり交通や犯罪、災害も含めて子供たちのいる通学路や、この空間を多くの人々の目で見守っていく。その目を作り出して行くことが非常に大事です。

皆さん方には是非子供たちを見守る目になっていただきたいと思いますという訳です。

では、犯罪は何故起こるのかという話で終わりにしたいと思います。皆さんちょっと手を挙げていただいてもよろしいですか。最後にクイズです。子供が連れ去りなどの犯罪に遭う場所、よく危険マップを描く訳ですけど、皆さんはAとBのどちらが危険な場所だと思いますか。先程のような刃物を持った人が子供たちに向かってくる場所を思い描きますね。挙手をお願いします。圧倒的にBが多いですね。実は、明らかに違うように見える写真を持って来たのには理由があります。私たちはどうしても犯罪が起こるのは、暗くて人気がない場所で起こると思う訳です。もちろんそれは正しいのですが、実はBのような暗く、いかにも犯罪が起こりそうな場所で起こるとは限らないのです。Aは去年の神戸の事件現場となった場所ですし、Bは一昨年三重県で、花火の帰りに中学生が被害に遭った事件現場です。そう考えると、明るい、暗いは関係ないのです。今、どちらに手を挙げた方も正解です。暗くても明るくても起こるので間違いという方はおりません。

犯罪が起こる状況には3つの条件があります。1つ目は、誰か子供を襲って連れ去ろうとたくらむ人がこの場所にやってくる。2つ目はそのターゲットになる人。つまり、自分より圧倒的に力のない人が存在することです。この2人ではまだ犯罪にはならない。

ではもう1つ、大事な3つ目の条件。これ「監視者の不在。」です。まさに皆さん方のように、地域で子供たちを守って犯罪から防いで下さる方々の存在がない時には、Aの場所でもBの場所でも犯罪は起こる可能性があります。また、交通事故もやはり人が見ている、見ていないということが1つの要因になると思いますね。人の存在がある、更には皆さんのような意識を持って見て下さる方の存在があるかないかで、子供たちが被害に遭うかどうかを左右する大きな要素なんです。そのために、さっきの練馬の事件のような隙間、盲点となっている場所は意外とあります。やはりそこに目が向けられない場所であれば、どんな場所でも盲点になって来ます。

ということで、これを交通に置き換えれば、ある意味同じように言えるかと思いますが、そこで見ている人がいなければルール違反をしてもわかりません。私に自転車でぶつかった人、私はすごくショックでした。もう本当に歩けずに、足がガクガクして本当にひどい目に遭ったんですけど、あその後、まだ私の体が良くなならないうちに、同じ事故を目撃してしまい、すごくショックでした。お互いにルール違反があった時には皆で注意をし合う。声を掛け合うというように、皆の存在や皆の目が視覚的にすごく重要なものだと思います。

そんな訳で、目は大事なんだという話で、交通と安全のことを少し関連させながら話をさせていただきました。

【2日目】

■グループ討議の結果

グループ名	1. 高齢者
討議テーマ	高齢者の安全について（免許返納活動）
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ●鳥取県 免許返納活動について 日野町役場：対象 ①75才以上の後期高齢者 ②身体障害者 → タクシー50%補助（財源：町の助成金） ●島根県 交通指導員が反射材を活用した寸劇によるサロン活動 反射材：孫→高齢者へつけてもらう（高齢者→孫へ渡ってしまう） ●岡山県 倉敷市：高齢者参加のイベントで反射材（LED）を説明 敬老会で寸劇 免許返納→バスや店が10%割引 ●広島県 府中市：シルバーナイトスクールなど 防犯も含め、75才以上高齢者宅を消防署員と訪問 医療キッド（血液型やかかりつけ病院も表示）配布 ●山口県 自動車教習所にて夜間の交通安全教室を計画 ・6時と8時の2回実施 ・送迎は教習所へ依頼 ●徳島県 免許返納（住民カードを無料交付） ワンワンパトロール、寸劇、ゆうあい訪問 市バス内で交通安全ポスターを掲示（2ヶ月間） ●香川県 反射タスキ（LED付き）着用して世帯訪問 →「免許返納してスッキリした。」という方もいた ●高知県 年1回民生委員と一緒に世帯訪問 →免許返納すると買い物時割引あり
対応策	<ul style="list-style-type: none"> ●「買い物に行けないから返納出来ない。」 → 小売店の出張販売 ●事故相談員：お金がない→任意保険に入れない→事故を起こし相談にくる 加害者にならないためにも免許返納を ●行政に智慧を絞り提案 → 行政からの補助（ふるさと創生事業等） ●教育 → “今日行く”ところをつくる

グループ名	2. 子供
討議テーマ	子供
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ●通学路を実際に歩いて点検、子供への指導や警察へ要望書を出す ●登下校時の街頭指導、見守り隊、青パト隊 ●保育園や幼稚園で「飛び出し。」を主とした寸劇・紙芝居・腹話術 ●大人へのチャイルドシート着用の呼びかけ ●小・中学校で自転車安全教室を開催 ●ヘルメット着用し交通安全教室に参加 → 市民プールが無料（愛媛県松山市） ●警察広報犬（トイプードル）と県内保育園へ交通安全教室を巡回（鳥取県）
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> ●警察が非協力的 ●権限がないため、あまり話を聞いてもらえない ●保護者への理解の求め方

	<ul style="list-style-type: none"> ●大人へのルールを守らせ方 ●人口が多いと見回り等が大変でありできない
--	--

グループ名	3. 自転車
討議テーマ	ヘルメットの着用
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ●桃太郎旗を作り配布 ●学年毎の指導（1・2年：横断歩道 3・4年：自転車の正しい乗り方） 自転車店にも協力依頼（無料点検） ●ヘルメットの正しい着用指導 ●高校生：校門前での自転車点検 ●反射材未着用の高校生にも着用指導 ●ヘルメット・タスキの着用指導 ●自転車シミュレーションやペーパーテストによる免許証発行（警察との連携） ●自動車教習所との連携による自転車教室（小学3年生）
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> ●地方のため歩道がない → 指導方法に悩む ●市町によりヘルメット着用と未着用の地域がある ●ヘルメット着用状況 小学生：50%以下（所持85%） 中学生：100% 高校生：なし ●なまじっかの手信号は危険を伴うのでは
対応策	<ul style="list-style-type: none"> ●ヘルメットの無償化 ●小学校低学年からの早めの自転車指導が重要（より効果が高い） ●新しいヘルメットへの買い替え（古いと効果が減少） ●自転車購入前の小学2年生頃に自転車ルールを指導

グループ名	4. 交通安全教育の手法
討議テーマ	「活動の固定化」 「若手会員の加入」 「温度差」
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ●事故の原点を知る ●毎年新しいキャンペーンを実施 ●幼・保・小・中・高 含め活動（保護者・高齢者も含む） ●保護者が「見守り隊」で活動 ●高齢者死者数が全体の6割のため重点的に活動 ●高齢者宅を直接訪問し、反射材を貼付（防犯活動も含む） ●講習会参加者は買い物での割引 ●「カエルがゴール」のステッカーや横断幕で活動 ●啓発時のテーマを決める ●新入児童の教育 ●警察や行政と協力して活動 ●劇団を立ち上げ啓発活動
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> ●交通指導員の高齢化（若手育成） ●全国キャラバン隊がなくなり「若手育成」が困難（温度差など） ●活動の固定化
対応策	<ul style="list-style-type: none"> ●リーダーの資質を向上させる ●責任感をもち若い人を引っ張る ●事故状況を把握し、その都度キャンペーンを変える（固定化しない） ●地域（行政）・警察・等と共に活動するのが重要 ●リーダーの運営方法により活性化する ●全国キャラバン隊が必要

■講評 (一財) 日本交通安全教育普及協会 主幹 石井 征之

それでは、これから総括も含めてお話ししたいと思います。

私が昨日、話した中で、皆さんの心に留めておいてもらいたい、要するに、具体的にこれは駄目ですよという事ことではなく、その下にあるベース的なもの、それは今お話しになった「交通安全は家庭から。」、これが私はベースだと思うんです。そこの所をきちんとやることによって、交通安全、要するに、事故がなくなるということだと思うんです。

昨日の最後にお話をした安全教育の5つの方法原理と言うのがあります。このことについて時間がなくて話せなかったんですけども、その5つの原理の中の1つ、一番上に来るのが「一回性の原理。」です。交通事故というのは、一瞬にしてその人の人生が変わる、またはなくなるという事こと。皆さんはそれについて真剣に取り組んでいるということに本当に敬意を表したい。と同時に、これは大切なことだということと考えなければならぬと私は思います。

それから、私が教頭の時のことを披露しますが、夜9時頃ですけども、晩酌をしてぼちぼち寝る時間だった。そこへ電話が鳴り、取り上げたところ、消防署員からの電話でした。お宅の高校2年生の誰と誰が事故を起こし、男の子が重傷、一緒の子は亡くなったと。昔は保護者名、電話番号、保証人名が全部載っている生徒名簿がありました。今は個人情報でそれがなくなりました。教員は必ずそれを自宅の電話の側に置いてあったんですね。私もすぐ置いて、それを確認しました。残念ながらその生徒の名前があったんです。教頭としてまず校長に連絡、次に教務主任、学年主任、担任、生徒指導に連絡して学校に向かいました。全員が校長室に集まりました。担任は、生徒の病院を回って一番最後に校長室に入ってきました。本当に涙、そういう状況でした。

担任が言うには、亡くなったのは2年生の女の子です。その子は今まで一度も遅刻とか欠席がなかったのですね。2年生の9月の話ですから、1年半全く欠席もなく、その子は学校に来ていたという状況でした。死亡事故があった場合は、必ず次の日に全校集会を開いて、状況を説明して、全員で黙祷を行います。明日の時間帯の何処を削って黙祷の時間を設けるかということを決めて、解散したのが12時を過ぎておりました。

そして、次の日の朝7時ごろ、また全員が集まって、職員会議で黙祷をしました。まさしく私はそういう場面を今まで何回もやってきた。学年主任の時もやってきたし、教頭の時もやってきました。それから葬式にも行きました。女の子は3人姉妹の一番下の子で非常に可愛い子でした。葬式の時のお母さんはもうフラフラの状況でした。

葬式が終わって1週間後に、お父さんとお母さんから私の所へ校長先生にお願いがある

という電話がありました。私はその電話をもらった時、本当にドキッとしたんです。もしかして学校として不備があったのではないかと、対応に不備があったのではないかと。私は校長と2人、本当に厳粛な気持ちでご両親を待っていました。

ご両親が来校され校長室に案内しました。お父さんの話ですが、あの子はとにかくこの学校が好きだったと。毎日学校から帰って来ると、今日は学校でこんなことがあった、こんなこともあったと、必ず話をしてくる子供だったと。今回、こんな事故で非常にご迷惑をお掛けしましたと。そして校長先生にお願いがあるということなんです。

何ですかと聞いたら、あの子が大好きな学校の敷地内にリンゴの木を植えさせてもらいたいと。それと全く同じ木を自分の家の庭にも植えたいというお話でした。なぜリンゴですかと聞いたら、リンゴは花が咲いて実が成るからという理由からでした。校長も了承し、それから2週間後、校内の隅にリンゴの木を4本持って来られ、2本を学校の中に植えて、2本は自宅の庭に植えました。リンゴの木にイタズラされたりすることのないよう、全く他の生徒には分からないように植えました。クラスの子供たち全員で植えたのですが、本当に涙ながらで植えたという状況でした。その後、私はその学校内を通る時には必ずリンゴの木を確認するようにいたしました。今、そのリンゴの木は立派に成長し大きな木になっております。皆さんもそうですが、我々は今、目の前にいる子供たちを、とにかく一回性の原理に遭わないようにするため、色々話をしていると思うんです。

それから、2つ目は「危険予測の原理。」です。危険予測の原理では飛び出しの話をしました。この飛び出しというのは本当に危険ですね。もしかしてという考えをいつも持つよう、子供たちに訓練する必要があると思いますので、そこをベースにしてお話してください。

それから、3つ目は、まさしく家庭教育、「交通安全は家庭から。」なんですけども、「自己統制の原理。」です。要するに、セルフコントロール。セルフコントロールが出来ない子供にならないように、お母さんの力、家庭の力がすごく大切だと私は思います。

4つ目が「生活習慣確立の原理。」です。大体非行を犯す子供たちというのは生活時間がメチャクチャです。何時に寝て何時に起きるか、全くリズムが狂っている。そういう状況の中で色々な非行が起きます。ですからきちんとリズムを持って生活出来るようお母さんたちに話をしていただきたい。それが結局は交通安全につながる。ベースの所をまずきちんと押さえて、お話をして行けば皆さんの話もまた膨らんで行くのではないかと。

それから、5つ目は「地域性の原理。」。これは地域によって全く違うということ。例えば、今日色々な県から色々な発表やお話しがありました。この中で皆さんは、うちの地区

でもこれは出来るな、やってみようかなと思う事をぜひ実践して欲しいと思います。この講習会はそういう会ですから。ただ、全く同じことをしては駄目ですよ。自分の地域に合っているもの、地域性を十分に考えて実施する必要があると思います。

昨日、5つの方法原理について詳しく話すことが出来なかったのも、今話をさせていただきました。私の講評を含めて話しますと、2日間色々な方々の情報をいただきました。その中で、皆さんが噛み砕いて自分の所でどうかということを考えながら、出来る所をやっていく。決して無理はしないということで取り組んでもらいたい。

もう1つは、「Plan・Do・See」が良く言われます。要するに、ある事業を計画し、それを実施し、そして検証する。この3つの過程です。私もですが、大概高齢者になると、よし、やるぞと言って計画をして、よし、頑張ったということで終わって、ああ良かった、良かったで一杯飲んで終わる。こういうケースが多いですね。皆さんはそうではないと思いますが、とにかく最後には検討をする、これをもう一度重要視していただきたい。

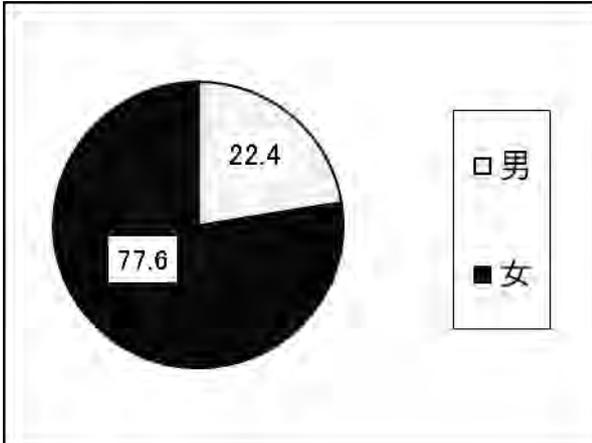
それが次の事業につながっていきます。例えば本日、帰りにアンケートを書きますが、それぞれの事業でどういうアンケートを取れば良いのか、面倒くさがらずに記入出来るよう、色々考えて作成すると思います。それも非常に大切ですが、それをまとめて、結果がどうだったか、次の事業にはこれをどう生かすか、この辺りをぜひ時間を掛けてもらいたいと思います。

それから最後に組織の問題ですね。組織のお話しで若い人たちが伸びて来ているという話がありましたけども、是非皆さんも私の次に会長職をやる人、副会長をやる人、または私の後を引き継げる人、常に育成する視点を持ちながら色々な会議をする。そして人を育てて行くという視点を強く持ってやっていただければ良いと思います。

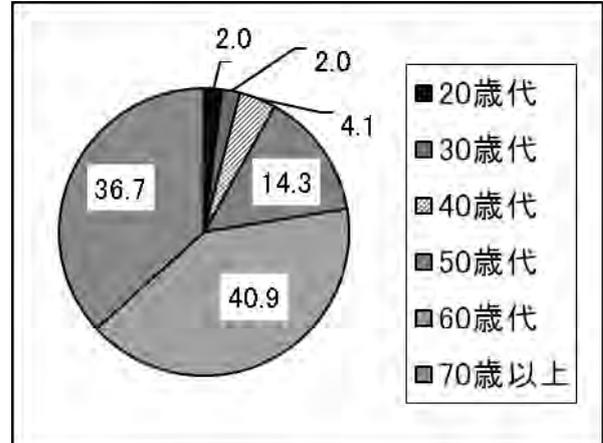
私の方で色々お話をして来ました。班別協議 80分、長くは感じなかったですね。皆さんにとって非常に活発に協議され、まだ足りないような顔をしていました。本当すばらしい。私はこの研修会のポイントだと思います。私は講話で70分お話ししました。話を70分聞くだけでは余り良い研修ではない。グループに分かれて色々な意見を話し合う。今日の80分というのが大きなポイントだったと私は思うし、大切にしてもらいたいと思います。2日間本当にいろいろお世話になりました。ありがとうございました。

3. アンケート集計結果

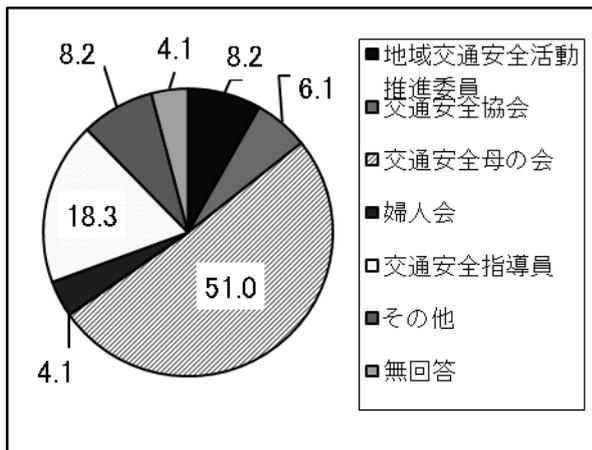
1. 性別



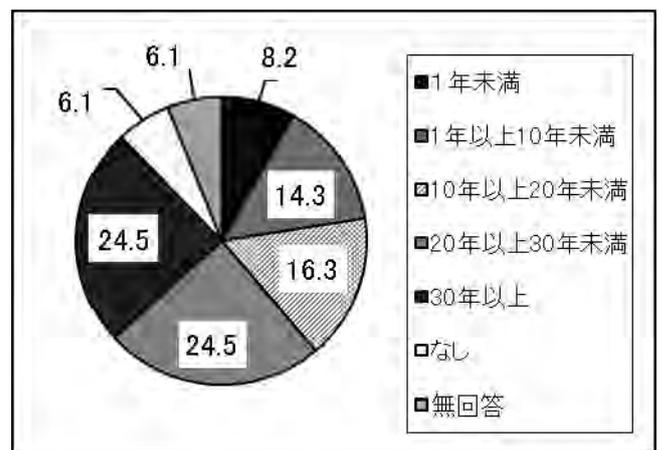
2. 年齢



3. 所属団体

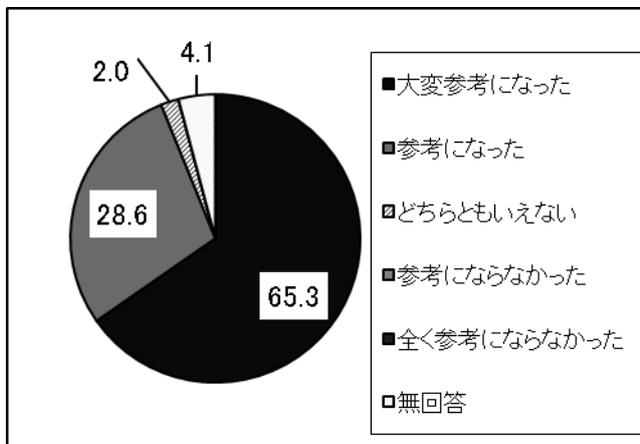


4. 活動年数

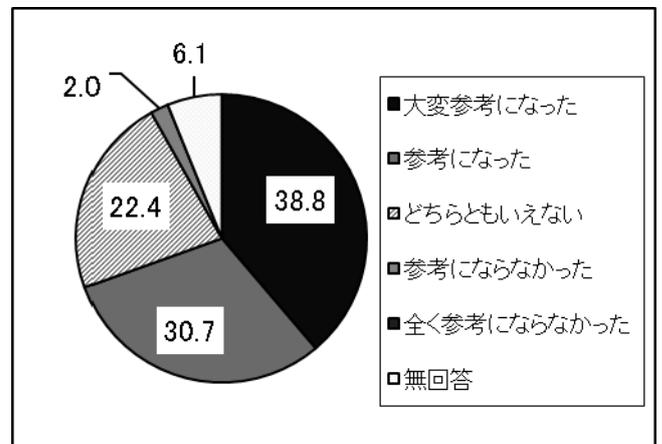


5. 評価

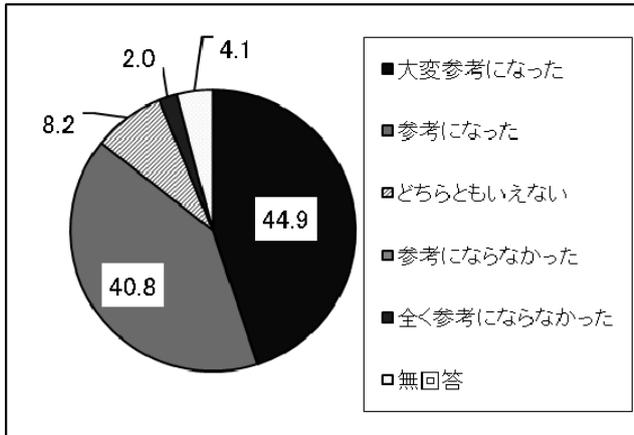
[講演 講師：石井征之先生]



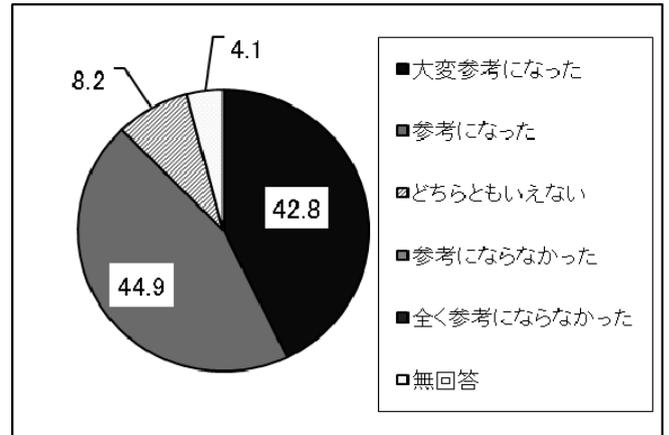
[講演 講師：宮田美恵子先生]



[グループ討議]



[総合評価] (講習会全体として)

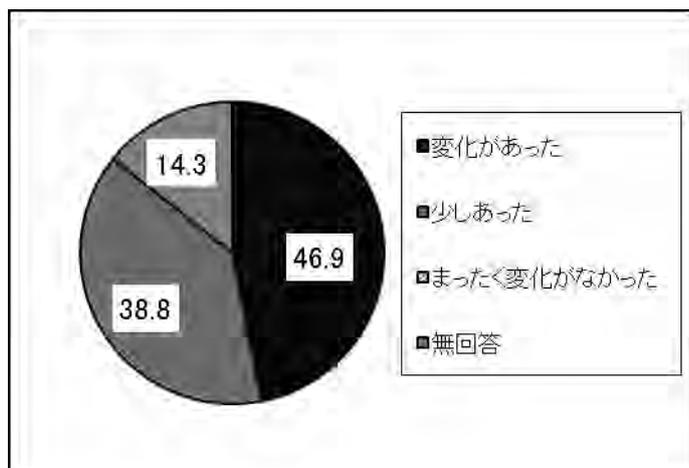


6. 今回の内容以外で学びたかったこと

(取り上げて欲しいテーマや内容)

- ・ ボランティアの育成方法、ボランティア自身に対する教育
- ・ 身近な交通の話
- ・ 高齢者対策
- ・ 中、高校生の自転車利用の対処方法
- ・ 年齢別で自転車の指導方法を討議したい。
- ・ 幼稚園、保育園、高齢者への指導方法、教材など具体的指導内容の活動発表
- ・ 他団体との連携協力の持ち方

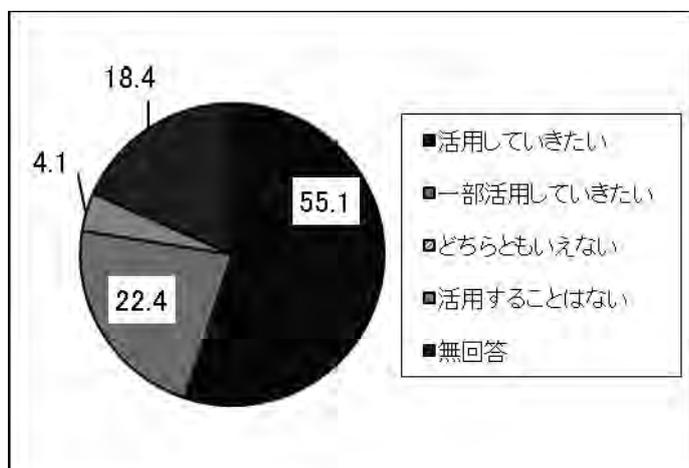
7. 講習会参加による意識の変化



7-1 変化があった場合はその内容

- ・活動の地域を広げて行きたいと思った。
- ・ボランティアの方々の協力が不可欠であると改めて認識した。
- ・自転車安全利用五則の再確認が出来た。
- ・自転車事故の奥深さ、指導の在り方を今後活かして行きたい。
- ・グループ討議で色々な活動方法を知り、自県でも進められる内容があった。
- ・自転車利用時のヘルメットの着用に早速取り組みたい。
- ・マンネリ化した活動内容を初心に帰りさらに工夫して行きたい。
- ・石井先生のお話し、改正道交法での路側帯の通行、自転車安全利用五則など良く理解していた。
- ・他団体の活動を参考に自分たちに出来る形で活動して行きたい。
- ・高校のヘルメットの義務化
- ・自転車や子供たちの見方が変わった。
- ・値域で子供や高齢者を見守る大切さを再認識した。

8. 今回学んだ内容を今後の交通安全活動に活用するか。



8-1 【初めての参加者に対して】どのように生かしていきたいか。

- ・ボランティアの方々との連携について、県の事業を参考にしたい。
- ・自転車だけでなく、歩行者に安全ルールやマナーを守ってもらえる指導を行って行きたい。
- ・幼児や保護者への啓発を進めて行く。
- ・自転車指導の際、何処にポイントを置き説明するか学ぶことが出来た。
- ・地域性を活かした活動を行って行きたい。
- ・自分で考えさせる指導の大切さを再認識出来た。
- ・教えるだけでなく、自分自身で実際にやってみる指導方法を更に考えた。
- ・初めて知ったことが多く、今後の活動に活かして行きたい。
- ・敬老会での寸劇を考えている。

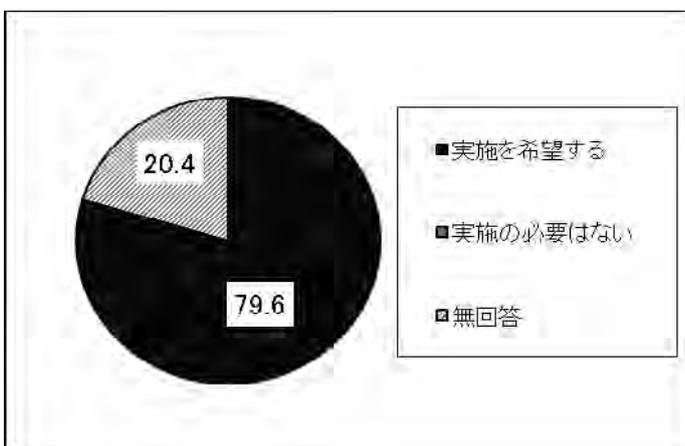
8-2 【2回目以上の参加者に対して】どのように活用してきたか。

- ・各県作成のパンフレットに少し工夫を加え作成している。
- ・面白い、分かりやすい、楽しい教室が必要だと思う。
- ・他県の良い活動事例を参考にさせてもらった。
- ・子供への交通安全の呼び掛け、お年寄りへの広報
- ・朝の一声が交通事故を少なくする。
- ・地域の戻り自転車の乗り方などを話し合った。

8-3 【2回名以上の参加者に対して】活用のきっかけとなった、過去の講義名や内容。

- ・高齢者世帯訪問のパンフレットや、はがき型の「こんにちは〇〇さん、お元気ですか。」
- ・児童の心理や発達段階からの交通事故防止についての講義
- ・グループ討議での他県の発表を聞き、ヘルメットの大切さを知った

9. 来年度の開催について



10. その他の意見・要望

- ・母の会以外の参加者を募る必要がある。
- ・運転免許証返納について、行政、警察、企業等の大きな連携が必要。
- ・高校生の自転車利用時のヘルメット着用と自転車保険加入に取り組んでどうか。
- ・参加者の活発な活動に刺激を受け、皆で活動することが交通安全につながると再認識した。

4. 記録写真



開会挨拶（内閣府 横山参事官補佐）



講演 石井征之先生



講演 宮田美恵子先生



グループ討議



グループ討議 結果発表



コーディネーター 石井先生による講評